

「伝統は革新の連続」

第4回中小企業憲章に関する研究会資料

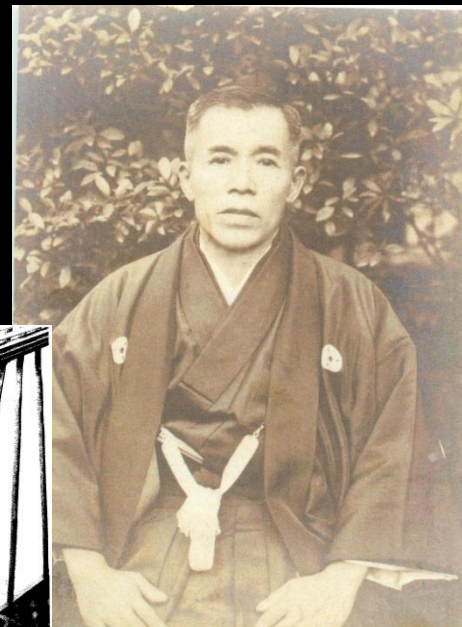


京和傘

日吉屋

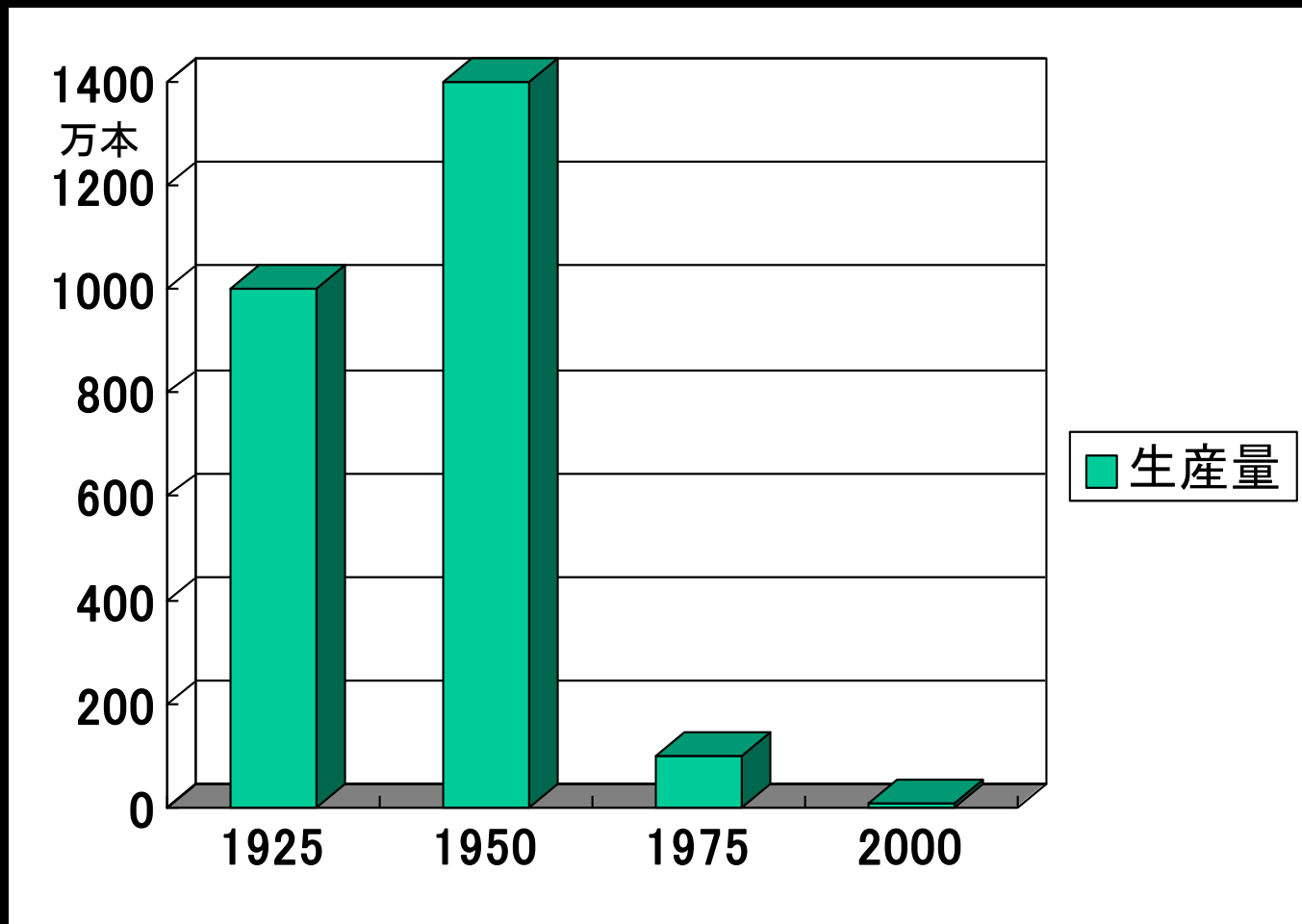


和傘は主に竹と和紙で出来た伝統的な傘



日吉屋は江戸時代創業、150年続く老舗

●和傘生産量の推移



しかし、和傘の生産量は激減



現在は、伝統工芸品となっている

「伝統」 とは 「革新」 の連続

日吉屋の考え

「伝統」とは「革新」の連続



古来は傘の形状も用途も異なっていた

「伝統」とは「革新」の連続

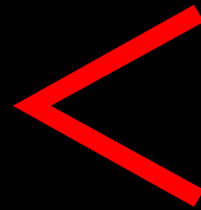


数百年かけて進化し、江戸時代に一般化

「伝統」とは「革新」の連続



和傘職人



日本カモシカ

現在では全国で数軒に減少してしまった 8

「伝統」とは「革新」の連続

和傘の優れた点

竹骨の意匠、和紙の透過光、開閉機構



照明デザイナーとのコラボレーション

(東京デザインパーティー 長根氏)



古都里 KOTORI



- 和傘の優れた点
 - 竹骨の意匠
 - 和紙の透過光
 - 折り畳み可能







TENDENCE 招待出展 経済産業省地域資源補助事業活用

海外展示会出展（フランクフルト）



Sozo_comm 経済産業省/国際家具振興協会
(メゾン・エ・オブジェ 2009 パリ)

Japan by Design 経済産業省/JETRO
(ICFF 2009 ニューヨーク)



海外展示会出展 (パリ・ニューヨーク)

デザイナーとのコラボレーション事例

(Qurz inc 島村.氏)



竹集成材と特殊フォルムの新型和傘

WAGASA

デザイナーのコラボレーション事例

(MIYAKE DESIGN 三宅氏)



和傘の開閉機構と意匠を活かしたスチールフレームのランプ

MOTO

今は新しくとも、数十年後には、誰も発明者を知らない、普段の生活の中にある、普通のモノ。

そのような商品を作り続けていきたいと思います。

「伝統」 → 「革新」
→ 新たな「伝統」

弊社は斜陽産業と位置づけられている伝統産業に属しておりますが、その技術を転用すれば、世界市場でも勝負できる商品が出来ると信じております。

売上高も10年前には年商100万円だったものが現在は約60倍に拡大する事が出来ました。

伝統産業は、そのほとんどが中小零細企業であり、廃業が相次ぎ、市場も年々縮小する一方です。誇りも失い、先細りに対する不安や、諦め感が漂っているようにも感じられます。

私の場合は、偶然妻の実家が和傘屋さんだったのですが、皆が諦めていた和傘という商品に可能性を見出し、チャレンジ精神を持ち、排水の陣で、ここまで来た様に思います。

しかし、弊社だけが特別な訳では無く、海外市場にも進出できるようなポテンシャルを持った商材や技術は日本中に埋もれていると思います。

もし、そのような可能性に他の多くの中小企業も目を向け、自社でも新たな取り組みを始め、それを経済産業省や、中小企業庁、中小企業基盤整備機構等が効果的に支援する事が出来たなら、どうでしょうか？

全国に中小企業は420万社あるとの事です、仮にそのうち1%の企業が新たに年間500万円でも新規事業で売上を出せればどうでしょうか。

自分の経験では、これらの事は規模の小さな会社でも十分可能な事であり、やる気とアイデア次第だと思います。身近に成功事例があれば、より容易に取り組める事でしょう。

小さな成功を多数の企業で達成できれば全体では大きな底上げになります。

中小企業憲章には、小企業でも企業家精神を持ち、創意工夫を持って仕事に取り組めば、将来に希望が持てるというような教育、啓発、社会環境の整備を盛り込むべきと思います。

「伝統は革新の連



HIYOSHIYA

京和傘 (株)日吉屋

京都市上京区百々町546 TEL:075-441-6644

FAX:075-441-6645

Info@wagasa.com

www.wagasa.com